

いわみの

(益高だより)

令和4年3月号

(第158号)

令和4年3月24日

島根県立益田高等学校

“あっぱれ益高生！！”

校長 長岡 正和

第3学期の始業式は放送で行いましたが、最後に改めて1, 2年生全員に向けて、

「この3学期、最後の最後まで頑張る3年生を応援し、その姿、生き様をしっかりと見ておいてください。1, 2年後に自分自身が通る道であるとともに、今、現在の時間を大切にすることに、ぜひ繋げてもらいたい。」とお願いしました。

また、卒業式式辞において、卒業生と保護者に向けて、次の話もさせていただきました。

「1月15日、16日の大学入学共通テストの2日間、私(校長)が本校から県立大まで送迎してもらった大型バスの最後尾を車で追走した時のことです。受験生である卒業生達を乗せた目の前の大型バスのナンバープレートの数字に、思わず「縁」というか、卒業生達の益田高校で培ってきた大きな「運命」を感じました。その番号は「365」。卒業生がこの一年間必死に地道に粘ってきた365日の思いをこのバスが共通テストの会場に運んでくれている、ぜひこの努力を实らせてほしいと願いながらハンドルを握っていました。」という内容でした。

ところが、今年度の共通テストは本校生徒が比較的得意にしていた理数科目がかなり難化し、全国平均点が例年より50点近く下がるという厳しいテストでした。卒業生達は、大きなショックを受けながらも、その後の特別補習、小論文・面接指導、個人添削などに最後の最後までひたむきに粘り続けました。

その結果は、実に素晴らしいものでした。第1希望である国公立大学前期試験での合格率(合格数/受験数)はなんと81%!! 5クラスから4クラスに減った中でも合格数はかなり多く、後期試験の合格発表前の現在の国公立大学合格率(合格数/卒業生数)は51%、これはここ十数年間では最も高く、卒業生の半数以上が国公立大学に合格したということになります。そして、難関大学だけでなく、広島大・岡山大・熊本大など(いわゆるブロック大学)の合格数がかなり多かったことも特筆に値します。さらには、総合型選抜入試や推薦入試での合格にも近年の特徴が現れていました。主に、高校での探究学習の取組などの経験を通して、いかに自分の言葉で自分の夢や将来のやりたいことが語れるかなどが評価される試験です。本校では地域の方々を始め、多くの大人と関わりながら課題探究・課題研究にも力を入れてきています。島根県立大学からは多くの受験生の中でも、益田高校生の受験生のプレゼン能力の高さ、熱意は抜群であったとお褒めの言葉をいただいたくらい立派な成果を挙げてくれました。

また、国公立大学だけではなく、私立大学、国公立短期大学、専門学校、就職等についても、それぞれがほぼ第1希望での合格を果たし、しっかりと進路目標を達成してくれました。まさに“あっぱれ”の一言に尽きます。

3月15日、毎年恒例の1, 2年生を対象にした卒業生による受験体験発表会を行いました。1, 2年生各教室において、9名の卒業生から益田高校での3年間を振り返り、その過ごし方や思い、受験体験を通しての後輩への様々なアドバイスを気持ちを込めて丁寧に語ってくれました。1, 2年生が、その体験談を真剣なまなざしで聞き入り、積極的に質問している姿に、益田高校の伝統の重さを感じることができました。1, 2年生も必ずや卒業生達の姿を受け継いでくれることと信じています。 “あっぱれ益高生！！” 次は1, 2年生の番です。

「学級日誌」

教務部長 山田 忠幸

2年1組の学級日誌を拝見する機会がありました。ステキだなと思いました。担任から出されたお題に対して、日直の生徒が自由に作文を書いていて、それが深イのです。例えば、「自分にとっての一流は？」というお題では、「一流とは何か」という概念的な内容を論じている作文や、実在する人物（作家やスポーツ選手、家族など）を例に出し、どの部分が一流なのかを分析しているものがありました。メールのやりとりが増えて文を書いたり読んだりする機会が減っているとされる中で、自分の考えを長い文章で魅力的に書くことができていることに、一流について考えたこのある人は、少なからず「一流の自分」に近づいているはずです。因みに、おとなりの2組の日誌には友人の良いところを紹介するコーナーがありました。全てのクラスを紹介はできませんが、どのクラスも1年をかけてステキな作品ができていることでしょう。授業やテスト以外の学びの場をこれからも大切にしていきたいものです。

令和3年のクラスは終わりです。たくさんペア学習をした隣の席の友人にお礼を言っておきましょう！

「豊かな毎日のために」

生徒部長 中村 展久

春休みの部活動を楽しみにしていた人もあったと思いますが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、3月いっぱい部活動は原則停止になってしまいました。部活動は興味・関心が共通した仲間と一緒に活動をすることが一番の楽しさですが、それができない時だからこそ改めて、自分でスポーツや文化的活動の楽しみ方を工夫してみる機会にしてみましょう。4月1日からの活動に向けて目標をもち準備をすることもありますし、この期間に新しいことを始めてみることもあるかもしれません。日々の生活の中に、楽しさや爽快感、達成感をもたらしてくれる活動を見つけ実践していきましょう。

「進路指導＝在り方・生き方指導」

進路指導部長 佐藤 洋平

今年の受験生は、本当によく頑張ってくれました。過去10年間の本校の進学実績の中では国立大学の合格率が一番高く、私立大学や専門学校、就職希望の人たちもほぼ自分が希望する進路を実現することが出来ました。それぞれの生徒が、自分の目標とするところを明確に定め、受験は甘くないということを自覚し、自分の進路目標に真摯に向き合った結果だと思います。3年間でノートを170冊使った人、毎朝6時半から登校して夕方6時半まで勉強した人、どれだけ反対されても絶対に第一志望を譲らなかった人など生徒一人ひとりに様々な進路のストーリーがありました。やり方は人それぞれですが、みんな自分の進路は自分で切り拓くという逞しさを持っていました。先日行われた「受験体験報告会」において、「周りから応援してもらえるような人になりましょう」と言ってくれた先輩がいました。進路実現の過程において、勉強面だけでなく、人としての在り方・生き方を学んでくれたことを心から嬉しく思います。1、2年生のみなさん、これから先輩たちの背中を追いかけ、自分の進路と向き合うことで、人として成長すること期待します。

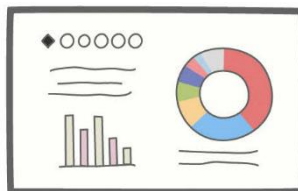
島根県高校弁論大会

松江市で行われた島根県高等学校弁論大会で2年生の乾華さんが最優秀賞になりました。来年度東京で行われる全国総合文化祭弁論部門に島根県代表で出場する予定です。



島根県高等学校理数科課題研究発表会

3月8日に島根県民会館で実施された、第18回島根県高等学校理数科課題研究発表会に2年生理数科の課題研究の生活科学班・物理班が参加してきました。2班のうち「現在の飛行機とYS型飛行機の翼の違いの比較」を発表した物理班が優秀賞に選出され、来年度高知県で開催される第24回中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表会の誌上発表（コロナウイルス感染予防のためポスター発表中止のため誌上発表に変更）に島根県代表として発表することになりました。



退職される方

石川 義郎 先生（地歴：世界史）

60歳となり母校で退職の年を迎えることができ本当に幸せです。でも、退職は私の人生にとっては1区切りに過ぎません。次の目標を建てて、新たな一步を踏み出していきます。私にとっての人生の峠はまだまだ見えません。明日への夢と希望を持ちながら、毎日を充実させて生きたいです。お互い頑張りましょう。

大野 美与子 先生（事務）

たくさんの方々に支えられて、8年間PTA事務として勤めることができました。本当にありがとうございました。益高を離れるのは少しさみしいですが、これからも益高生の活躍を楽しみにしています。

木津 しずか 先生（業務アシスタント）

生徒の皆さんに青春という2文字はあるのだろうか。勉強、部活の毎日に追われながらも、もがき頑張る姿は自分の青春時代とは異なるが令和の青春はまた違う形であるのかもしれない。そんな事を思いただ見守る事しか出来なかった私は益田高校で働いて沢山の事を学んだ気がします。

働いていなかったら見えなかった景色、出会えなかった人達。働けた事に感謝しかありません。素敵な先生方、勉強や部活動を頑張る生徒の皆さんそれを支える保護者の皆さん。本当にありがとうございました。



池永 和江 教頭先生（国語）

2年間ではありましたが、母校で再び勤務できたことを嬉しく思っています。以前勤務した時に「益田高等学校百年史」の作成に携わり、今回また「百十年史」を作成することとなり、そういう巡り合わせだったのだらうと思います。

昨年は1年生、今年は2年生の授業に行かせてもらいましたが、本当に楽しかったです。ありがとうございました。

西田 利治 先生（数学）

昔の話ですが、増野先生がけがをして松葉杖をついておられた時、授業の前になると必ず生徒が職員室に来て、増野先生の授業道具を教室に運んでくれていました。「先生が頼んだのですか？」ときいたら、「益高の生徒はこのくらいのことは何も言わなくてもやってくれるよ。」と言われて、「すごい！」と思いました。今でもノートなどを運んでいるとすぐに「もっていきませんか？」と声をかけてくれる人がいます。これからもこういう益高であり続けてください。

椋木 達彦 先生（数学）

在勤中は、「平成→令和」「センター試験→共通テスト」「5クラス→4クラス」「学ラン→ブレザー」など、様々な変化が起きた8年間でした。中でも「素顔→マスク顔」「対面→リモート」の2つが皆さんに与えた影響は計り知れません。それでも、学ぶ姿勢を「他からやらされる→自らやる」へ変え、「どこにでもいる高校生→いてくれなければ困る人材」へと成長してくれることを近くで願っています。8年間ありがとうございました。

佐藤 洋平 先生（数学）

益高での6年間は意欲ある生徒のみなさんのお陰で日々の授業が楽しかったです。打てば響く、「伸びる・伸ばす」を実感することが出来ました。進路指導部にいることが多かったので、生徒のみなさんが本気になって全力で自分の進路実現に取り組む姿を間近で見られたことが嬉しかったです。そして、それを支える先生方は本当に真面目で、手厚く指導され、生徒のこすを真剣に考えていました。益高のこういった伝統をこれからも受け継いで欲しいと思います。ありがとうございました。

牧野 友一 先生（理科：物理）

『井の中の蛙大海を知らず されど空の深さを知る』この言葉は僕が一番好きで大切にしている言葉です。8年間も益田に居続けた僕には経験できなかったことがたくさんあります。しかし、益田に居続けたからこそ経験できたことが間違いなくあります。皆さんの中には外の世界に憧れを持っている人もいます。それでも、「今」皆さんがいるのは益田高校です。「今」できることに全力を注ぎ、「今」いる場所を大切にしてください。

薮 菜穂子 先生（保健体育）

益田高校での8年間で、誠実で素直な生徒の笑顔に癒やされ、苦しみなながらも乗り越えようと努力している姿に感化され、平穏な日々こそ貴重な時間なのだと実感しました。人との繋がりを大切にしましょう。笑顔あふれる益田高校が好きでした。ずっと応援しています。本当にありがとうございました。

石原 翔大 先生（美術）

まず、私自身初めての普通高校勤務で至らない点も多く、教職員の皆様、生徒の皆さんには困惑させてしまう場面も多々あったであろう事をお許しく下さい。

美術選択生の方、つたない指導ではありましたが、時折美術の授業で行った事を思い出して手を動かしてみるきっかけになれば幸いです。

美術部については、新型コロナウイルスの影響でコンクールのほとんどが中止となり目標が見えにくい中での活動でした。来年度も予断を許さない状況が続くかもしれませんが、是非自分なりの目標を見つけて活動を行ってほしいと思います。特に美術系への進学、就職を目指しておられる方、是非画塾等に通い、ライバルの状況を見極める機会を自分から求めてほしいと思います。

1年間ありがとうございました。